

## 地元産食材で新規開発したイモ菓子の 販路開拓支援

支援の  
ポイント

- ① 支援機関(金融機関)と企業経営者との深い信頼感をベースにした支援体制の確立
- ② 「経営革新計画」承認取得を軸とした、支援機関、巡回アドバイザー、及び専門家の一体支援
- ③ 大分県、JA全農おおいた、近隣観光地(長湯温泉の4旅館)などの支援を取り付け、販路開拓・PRにも効果的な体制を構築

### 支援の経緯

支援企業は大分県豊後大野市で菓子を製造販売し創業6年になる。創業時より大分県信用組合(以下、県信)三重支店との取引関係があった。支援企業の創業社長の商品開発力・技術力には定評があり、開業当初はマスコミの取材等で注目を浴びたが、近年は、販売促進等営業活動の不足により収益性の悪化もあり、経営改善・新たな事業展開に関し大分県信用組合三重支店に相談が持ち込まれた。

県信三重支店担当の若杉代理は県信本部で中小企業支援を統括する、県信企業推進部(けんしん中小企業支援センター)の矢田推進役と協議、支援ネットワーク事業のスキームで支援が可能か打診した。

矢田推進役は県信の支店長として、中小企業支援の実務経験も豊富で、巡回アドバイザーと専門家の適切な支援があれば今まで以上に事業展開が図られ、販路開拓に繋がると判断、巡回アドバイザーの長野氏とも協議の上支援を開始した。

### 支援のプロセス

長野巡回アドバイザーは、支援企業の商品開発に関する姿勢が同業他社に比べ優れており、その技術力を生かした支援を行なうためにも同社の経営体質を根本から変革することが重要と判断し、経営革新計画申請のテーマを「高精度甘藷を使用したイモ菓子の販売の拡大」とし、同計画承認取得への挑戦を同社に進言した。

まず、現状把握の為に、基礎的なマーケティング調査(来店者分析、商品別売上、ターゲット設定、周囲環境、消費動向等)を綿密に実施し、事業展開に於ける同社の魅力を確認することから始めた。

経営革新計画の申請準備の過程では、財務面も含め事業計画に対する考え方や認識を深めることが重要であり、同時に情報発信に関しても課題があったことから、経営革新計画をきっかけに信用力の強化と販路拡大、広報活動に努める必要があった。経営革新計画の策定には専門家派遣を実施し(合計3回)、最終的なプレゼン資料や発表方法等の支援も行い、平成23年5月無事承認を取得した。

一方、商品開発では、豊後大野産の高精度甘藷(さつまいも)を使用したイモ菓子の開発に県内で初めて成功し、大分県豊肥振興局地域振興部の協力も得て、高精度甘藷の登録商標の使用許可も「JA全農おおいた」から取得することができた。

豊後大野産の高糖度甘藷は、貯蔵庫で40日間以上置いたものなどと定義され、蒸し芋にした際の糖度は一般的なサツマイモの1.5倍あり、しっとりとしてクリーミーな食感が特徴である。しかし糖度が高い為加工する際、油の温度は低温で長く揚げる必要があり、焦げやすい。このため、食品加工が難しいとされてきたが、昨年秋に商品化に成功した。同社製造のイモ菓子は上品な甘さとクリーミーな食感が特徴で、砂糖の使用量は従来品の3分の1程度に抑えられている。また合成保存料などの添加物は一切使用していない。

協力を得た主な支援機関は以下の通り。

- ・大分県豊肥振興局生産流通部、地域振興部・大分県物産協会・大分県産業創造機構
- ・大分県産業科学技術センター・豊後大野市農業振興課・豊後大野市商工観光課・豊後大野市商工会
- ・大分県産業クラスター協議会・大分大学工学部（平田準教授）

## フォローアップ活動

支援機関は金融機関であるが融資実行が最終的なゴールではなく、矢田推進役は支援企業の今後の事業展開をサポートしていくことを視野に入れ、マスコミ等への紹介や販路の紹介等を積極的に行なっている。支援機関の紹介で近隣の観光地（長湯温泉）へ出向き、ビジネスマッチングを実施。大分食料産業クラスター協議会への紹介も行った。当初は自社店舗での販売のみであったが、豊後大野産の高糖度甘藷を使用したイモ菓子は評判を呼び観光地や生協、物産館、ネット販売、また大手量販店からの引き合いも活発に舞い込むようになっている。長野巡回アドバイザーと矢田推進役は今後の事業展開として積極的な拡販策を推進していくが、あくまで支援企業の経営資源（人・モノ・カネ）に見合った製造・販売方法をアドバイスしており、原料仕入れ、生産設備、売価設定、後継者の育成等の問題をクリアしながら着実な発展のための支援を継続する方針である。

## OJTについて

長野巡回アドバイザーは支援企業への訪問時は常に矢田推進役と同行し、支援方針の確認や専門家派遣の予定等を密接に協議しながら支援を実行している。役割分担としては、長野巡回アドバイザーが経営革新計画申請も含めた支援全体の統括と課題の抽出・切り分けを担い、課題解決のための専門家派遣を主導した。矢田推進役は経営革新計画申請に関し専門家と支援企業経営者、申請先である大分県商工労働部との調整役を果たした。長野巡回アドバイザーと矢田推進役はお互いに経験豊富で、明確な役割分担と密接な情報共有をすることで、経営革新計画の早期承認取得と新規商品の販路開拓に成功した。



支援企業の自営店舗に於ける打合せ風景。右から長野研一AD、背中が矢田幸徳指導員、左が中川智仁専門家